



第 38 号

平成23年 7 月 1 日

〈発行〉
 (社)江田島市シルバー人
 材センター

江田島市江田島町中央 1-15-15
 江田島市シルバーワークプラザ
 TEL (0823) 42-5211
 FAX (0823) 42-5051



新理事長就任

あいさつ

理事長 田口 宜久

このたび新理事各位のご推挙をいただき、風呂井理事長の職責を引き継ぎ、理事長に就任することになりました。いま身の引き締まる思いをひしひしと感じているところです。

もとより浅学非才の身であり至らぬ点多々あらうかと思いますが、会員お一人おひとりのご支援、ご協力が必要不可欠でございますので、今後とも前執行部同様ご指導・ご鞭撻の程お願い申し上げます。また、組織の経営等につきましては、60の手習いとなりますが、「百尺竿頭須進歩」の教えを踏まえ微力ではありますが、尽力する所存であります。

次に、4月1日付けで「社団法人」から「公益社団法人」へ移行、また理事の一部変更が有りました。

従って事務手続き等何かと不慣れな部分も想定されますが、事務方や関係者等と力を合わせてシルバー人材センターの基本理念を踏まえ、所期の目的を達成すべく努力したいと考えていますので、なにとぞご理解・ご協力の程、重ねてお願いいたします。

結びに、これまで当シルバー人材センターの発展の為に尽力いただいた先輩諸氏に感謝申し上げますとともに、会員各位の今後益々のご健勝とご多幸を祈念申し上げます、私のごあいさつとさせていただきます。

平成23年度定時総会に出席して

平成23年度定時総会は、平成23年5月27日午後1時30分から、江南ふれあいセンターで開催されました。議長に大年正光会員を選び、風呂井理事長のあいさつ、来賓の田中市長のあいさつをいただきました。

次に二井局長による

(一) 平成22年度事業報告

(二) 平成22年度収支決算の提案説明、井川監事の監査報告を受けて、可決・承認されました。

そして、理事及び監事を（選考委員会の推薦どおり）可決・承認し、新しい理事・監事が自己紹介して総会は終了しました。

この後、互助会総会が開催され、平成22年事業報告、収支報告平成23年度事業計画及び同収支計画が提案され可決されました。

最後に会長に今宮会員を選び、閉会しました。

小松 貢

新役員・班長紹介

(敬称略)

理事長 田口宜久 (江田島町切串)
副理事長 東谷寛明 (大柿町大原)

理事 八木信寿 (江田島町中央)

上田英夫 (江田島町中央)

森井 勉 (江田島町鷺部)

加藤尚子 (江田島町鷺部)

瀬戸常雄 (江田島町小用)

鎌田健二 (江田島町秋月)

大迫敏夫 (大柿町大君)

森合 修 (大柿町大君)

野崎剛睦 (大柿町飛渡瀬)

上向井明信 (能美町高田)

益村守範 (沖美町是長)

二井省三 (江田島町秋月)

井川 伍 (江田島町切串)

登地靖徳 (沖美町畑)

地域班長

久留須康尊 (中央1・4)

加藤孝右

(中央5・鷺部・江南)

浜坂愛子 (秋月)

瀬戸常雄 (小用)

高崎栄暉 (切串)

下谷源蔵

(大須・幸ノ浦・宮ノ原・津久茂)

澤岡邦恵 (大原・小古江)

後 昭十三 (大君)

古居 哲 (柿浦)

溝口弘志 (能美町)



職群班班長 一般作業班

崎川哲男 (岡大王・畑・是長)
谷本正行 (三吉・美能・高祖)

櫻野昭人 (小用)

落野 弘 (中央)

加藤孝右 (鷺部)

後藤 寛 (切串)

畑本敏雄 (深江)

谷本正行 (三吉)

橋本繁男 (中町)

浜林慶三 (大柿)

大年正光 (中央)

施設管理班

梅田好政 (鷺部)

大工・左官班

津田 勉 (大原)

植木剪定班

落野 弘 (中央)

大盛成之 (大君)

益村守範 (是長)

塗装班

上山 清 (切串)

襖・障子班

香川正文 (飛渡瀬)

自動車運転班

大越 要 (中央)

福祉家事援助班

山田タケ子 (小用)

芦川征子 (小古江)

事務局

事務局長 二井省三

大柿支所長 重松鈴子

職員 宇根川民夫

久保田久美

三島雅司

平成
22年度

シルバ－人材センター

3月期通常総会

- 1 日時 平成23年3月18日
午後1時30分
- 2 場所 江田島市シルバ－ワーク
プラザ

3 開会のことは
中常会による、平成22年度3月
期通常総会の開会宣言。総会に先立
ち、故釜賀会員と3月11日に発生し
た東日本大震災で犠牲になられた
方々に対し謹んで1分間の黙とうを
しました。

4 理事長あいさつ

シルバ－事業においては、政府の
事業仕分け等により、大幅な補助金
カットそれと、社団法人から公益社
団法人への移行など、大きな転換期
を迎えています。

公益社団法人に移行することによ

新副理事長就任あいさつ

副理事長

東谷 寛明



平成23年度の江田島
市シルバ－人材セン
ターの総会において、
副理事長という重責を
仰せつかりました。

我が国は少子高齢化が進行し、殊
に高齢化は増加の一途をたどってい
ます。江田島市では4月末日現在の
高齢化率は、36・4%という高い率
を示しています。数年もすれば高齢
化率は40%を超えるものと思われま

り今まで以上に、非営利化公益性、
透明性の高い事業運営が求められま
す。

平成23年4月1日に公益社団法人



す。

江田島市シルバ－人材センターの
会員のみなさんは、戦中又は終戦直
後に生れ、育ち、昭和40年代からの
経済成長期には中心的な役割を為
し、日本経済を背負って来たので
す。その会員のみなさんが現役の時
と変わりなく、高い技術や社会経験
豊かな知識そして不屈の精神を生か
し、今もわがシルバ－人材センター
で力強く、明るく就業に従事してい
ることにたのしく、感銘を受けま
した。反面、近年のシルバ－人材セ
ンターを取り巻く環境は、運営をし
ていくうえで、特に財政面において

に移行する予定です。なお、公益社
団法人に移行することにより今回で
3月期総会は終わりになります。

5 議長選出

田口会員を選出

6 定足数

現会員231名・出席者28名、
委任状159名で総会は成立

7 議事録署名人の選出

飛渡瀬地区の野崎会員

8 中町地区の田中会員を選出

議事

議案第16号 平成22年度収支補
正予算(第1号)案について

議案第17号 平成22年度事業計
案について

議案第18号 平成22年度収支予
算案について

以上の議案が提出されましたが、
いずれも原案どおり可決成立し、閉
会しました。

厳しいものがあります。そうした中
で、会員のみなさんがシルバ－人材
センター事業を通して、元気に地域
社会を支え、活躍し、会員が輝くよ
うな生きがいを見つけて就業に精励
することを念願しています。

微力ではござ
います。江田
島市シルバ－人
材センター発展
のため最善の努
力をしてまいり
ます。何率ご指
導ご鞭撻をお願
いします。



退任あいさつ

前理事長

風呂井 侃

このたび高齢のため理事長を退任
させていただきます。

シルバ－人材センターには、平成
7年事務局長常務理事に就任して以
来16年間お世話をさせていただくこ
とができました。これも会員の皆様
方のご協力ご支援のおかげと心から
お礼を申し上げます。

在職中の出来事がありました。そ
の主なものは次のとおりです。

- 1 センターの合併
- 2 ワークプラザの建設
- 3 竹炭の生産開始
- 4 剪定枝葉のチップリサイクル
- 5 竹細工指導で全国生涯学習フェ
スティバル等会員の皆さんと
もに参加

6 今年3月公益法人として認可
今では懐かしい良い思い出となり
これに関わられた会員の皆さんのお
顔が目につかびます。

これからシルバ－人材センター
を取りまく環境はますます厳しくな
ると思われま。住民の皆さんに信
頼されるセンターになるには、会員
がセンター運営に積極的に参画され
「いつでも、どこでも、センターの
サービス」が提供できる体制づくり
が大切です。

シルバ－センターの今後の発展、
会員皆様のご健康をお祈りして退任
のごあいさつとします。

一つの池のヘドロを 週1回取ります

6月9日

日の午前、小用の浄水場の作業現場に行きました。

作業は浄水池の水を抜き、底に敷いてある砂の上

に溜ったヘドロを取り除くことです。この作業を9人の仲間が行っていました。

まず、表面から3〜5センチ程度の砂を取り、それを一輪車で運んでベルトコンベアに移します。コンベアに積まれた砂は、軽トラックに運ばれます。軽トラック一杯になると池の上に運びます。

「温かくなるとヘドロが余計に溜る」と、仲間の一人が話してくれました。「一つの池を週に1回取りま

す」。作業に従事している仲間はみんな長靴をはき、靴に砂の入るのを防いでいました。

安全で安心して飲める上水は、この様な事をしていることを忘れないで欲しいと思いました。



ふすま貼りは 夫婦で行う

6月17日の午前、ふすま貼りの仕事があるとの連絡があり、センターにかけつけました。

作業場に着くと香川さん夫婦が、作業台の上にまず水を塗り、紙をしつかり伸ばしてから、ミルク状に

薄めたノリをつけて貼っていました。



貼るふすまは壁に立てかけてあり、貼る順序はまず裏を貼り、それ

れから表に移ることです。壁に立てかけてあるふすまは裏で、それに2つの番号がついてあります。

「番号をつけておかないと迷うので必ずつけます」とは、香川さんの弁です。

まず、1枚にかかります。下紙を

支える仲間

貼って乾かし、その上に表紙を貼ります。それを約半日乾かします。「紙をしつかり伸ばさないと張りがでません」と香川さんが話してくれま

むところがあります」と、手を休めずに話してくれました。作業でノドが渇くのでペットボトルのお茶が数本用意してあります。その中の一本をいただき、その場を去りました。

松が一番時間がかかる

6月9日の10時過ぎ、鷲部の仁井さん宅の剪定の現場に行きました。

「この仕事は2人で作業をし、一日で終わる予定です。松が一番手がかかる時間がかかるのです」と松の剪定をしている仲間が話してくれま

もう一

人の仲間

は、庭の

ツツジの

刈り込み

や、伸び

た新芽を

まるく切

り取りま

す。「結

構刈り込



八幡様の社殿までのぼった

6月21日山野さんの現場に行く前に、八幡様の川向いにある川崎さんのお宅を訪ねました。最初、八幡様だと聞いていたので、石段の坂を社殿まで上ってみました。誰かいません。坂を下りて対岸を見ますと仲間が働いています。早速橋を渡って川崎さん宅に行きました。

作業は4人で、それぞれ仕事を分担して進めています。1人はモミジの枝の刈り取り。春に伸びた新芽をハサミで切っていました。「こうしないと枝が張りすぎるから」と話してくれました。

もう一人の仲間は、クロガネの剪定。横に伸びている太さ3センチ程の枝の上に伸びている小枝を10本あまり残して切り落とします。「この木は上が大きくなっている。去年やなかったんだな」と言いながら上に向かって伸びている太さが2センチから3センチの枝をノコギリで切り落とします。

あと1人は、家の前にある畑のそばの小さな道路わきにある、3センチほどの木の若葉の刈り取り。木の名前



は分らないとのことでした。「わしは1歳50以上背があるので、この木の高さは3歳位だのう」と話してくれました。

あとの1人は刈り取った枝を軽トラックに積む仕事。緑色の大きな袋に入れて軽トラックに移します。

汗だらだらの本当に大変な作業です。「熱中症にかからないように」と挨拶をしてこの場を去り、支所に行つて重松さんにお礼を言いました。重松さんの入れてくれたアイスコーヒー、とても美味しかったです。

朝8時に来て、 午前中に終わる

6月21日9時過ぎ、大柿支所を訪ね、今日の作業現場を教えてもらいます。現場は2カ所、山野さん宅は支

われら町を

所の近くにありました。

ところで、土地勘の無い私は何回行つても場所が分からず、支所の重松さんに案内してもらつて、やっと作業現場に着きました。

私が訪ねた時はちょうど休憩時、6人の仲間が軒下の日陰で

休んでいました。



作業はすでに、庭に植えてあるノリスの半分は刈り取られていました。

「草は水分を含んでいて大変です。朝8時に来て午前中で作業を終えます」。

「ノリ面の草や木を刈ると汗が出ます」と話してくれ、その後、今後の手順を話し合います。

「この家は建物の周りが空地になつていて、それを刈り取るのに時間がかります」。

私が家の裏にまわつて見ると「もつとこつちへ来てみんな」と

言われ、行つてみると隣家に面したノリ面がきれいに刈り取られ、この家のガラス窓と山野さん宅のそれはネットで保護されていました。

仲間の2人は刈った草や木の枝を緑色のビニールの大きな入れ物に入れてトラックに運びます。それに暑さも加わってきました。

本当に大変な仕事だと思い「熱中症にかからないようにしてください」と挨拶して山野さん宅を去りました。

盆灯籠づくり

6月22日

の朝、センターの作業部屋で盆灯籠を作っている仲間、カメラを持って作業部屋に行きました。

そこには風呂井前理事

長ら4人の仲間が作業中でした。作業は次のとおりです。

1 灯籠に貼る紙(紅と黄)を広げ、底辺が20センチ、高さ35センチの三角錐に切り取ります。

2 灯籠の飾りの細長い紙(幅1・5センチ)、長さ35センチくらいの細長いもの。紙にかね尺をあて、そ



の幅に鉛筆で線を引きカッターで切り取ります。

3 黄色の紙には、浄土真宗の紋章である「下り藤」の印を押します。

4人の仲間はこれらの仕事を黙々と続けていました。まだ灯籠の枠には貼られていませんが、貼られるときときれいだろうなと思いました。作業場には灯籠の枠がたくさん並べてありました。書くこともほぼ決まったので「ご苦労様」と挨拶してその場を去りました。

東日本大震災に思う

大地震に大津波、それに加えて東京電力の原発放射能被害が加わり、太平洋側3県の人々が受けた被害は想像するにあまりあります。

数千人に及ぶ津波で亡くなられた方達のご冥福を祈ると共に、家や田畑、漁船など生活の元手を失われた数千人の方々が、いま災害に負けず生活の再建めざして立ち上がっておられる姿に強く心を打たれました。

ひるがえつて、この様な地震津波がこの江田島を襲つたらどうなるのでしょうか。そういう事態にそなえた対策を市は「防災マップ」を各家庭に配っています。それをよく読んでおくこと、また、地域ごとに集まりをもつて、地域としてどう対処すべきかを決めておくことが大切だと思います。

鯉のぼりを揚げて

私が住む大柿町飛渡瀬の江田島湾最奥部の河川両岸に、3年前から、鯉のぼりを揚げて海風に泳ぐ鯉のぼりは、すっかり地域の風物になったようです。シルバー会員の小



松理事さんから「今年も揚げられるのを楽しみに待っている」とのお言葉をいただいたおりました。しかし3月11日に、東北太平洋側に未曾有の巨大地震が発生して、何万人の犠牲者、何十万人の被災者を思うと、鯉のぼり会員から「今年、鯉のぼりを揚げることは自粛する方がよいのではないか」と意見も出しましたが、この苦難の時こそ、元気の発信源として今年も揚げることにしました。

鯉のぼりの下に揚げた横断幕の標語は「いっしょにがんばろう」にしました。東北の被災者の皆様や私達江田島市民は、鯉のぼりのように元気いっぱい頑張りますよとの思い

シルバー会員の皆様、押入の中に眠っている鯉のぼりがありましたら、ご寄贈ください。

野崎剛睦

江田島民泊受け入れ家庭募集

●民泊を受け入れてみませんか？

江田島市では、教育（修学）旅行の誘致に取り組み、都市部からの生徒の民泊体験を受けていただける市民の家庭を募集します。（1家庭4名程度）

地域のひととのふれあいや交流を通じて江田島の豊かな自然や農林漁業などを体験してもらい、生徒も受け入れる側もより深い感動を実感できるものを目指しています。

感動体験！



- 1 募集期間 5月2日（月）～現在募集中
- 2 応募要件 ①江田島市在住の方！
②来訪者を家族のように迎えていただける方！
- 3 申込先・問合せ先 企画振興課（☎40-2762）



生涯現役で生き抜く気概を！！

高齢社会の到来のおかげで、誰もが老いることが当たり前の時代になりました。昔は生まれて50歳になるまでに半数の人が亡くなりましたが、現在、65歳到達率は過半数に達しています。「子供叱るな来た道じゃもの、年寄り笑うな行く道じゃもの」との言葉があります。昔はごく一部の寿命エリートが長生きしたのですが、今は40歳まで生きた人の大多数は85歳を超えといわれています。70歳を古稀というのは、杜甫の詩の「人生70古来稀なり」に基づ

く言葉ですが、最近では珍しいことではありません。私は今年11月で77歳の喜寿を迎えます。少しおめかしをと鏡を出して見ますと映った己の顔、は枯れ木も山のにぎわいならず顔は満面のしわシミだらけ、家内に「この鏡は映りが悪い」と言うとかさず「鏡は正直よカモフラージュはせんよ」と彼女。「何を」と言いかけたが「ならぬ堪忍するが堪忍」再度鏡を見て、過ぎた昔には戻れないのは百も承知。外見でなく中身で勝負と粹がつてみても、その中身が

何かわからない。ある本では、命の続く限り「現役」で生き抜いて、最後まで「成長」してみようとする人生観を築いていくことが、現代を生きる人間としてより自然なのではないか、との記述があります。「現役」で生き抜いて「最後」まで成長させてくれる団体としてシルバー人材センターの役割は大きいと思います。地域の高齢者が長年培った知識・経験・技能を生かし自主的に連帯し合い、共に働き、共に助け合っていく「自主自立共働共助」の理念に基

づく事業であります。高齢者の就業を促進し、高齢者自身の活動的な生活能力を生みだすと共に、その家族や地域社会に活力をもたらし、会員のみならず、地域活性・再生につながることを期待します。

混乱を繰り返す現代社会を生き抜く力を養うことが大切です。その参考となる格言として、江戸時代末期の学者佐藤一斎の有名な教えが有りますので、参考にしてください。

◎少にして学べば、則ち壮にして為すことあり

◎壮にして学べば、則ち老いにして衰えず

◎老にして学べば、則ち死して朽ちず（「言志晩録」六十）

風呂井 侃

視察研修

ワシコインサポート事業 八代市シルバー

厚生労働省が推奨する各々シルバー人材センターが自ら考え会員の就業を造り出す企画提案方式事業として、一昨年我がシルバー人材センターは、樹木剪定枝のチップ堆肥化事業を実施しました。この事業はゴミの減量化と地球温暖化防止に寄与し、また会員の就業率アップにつながる、有益な事業だったと考えています。

このたびの視察研修は、企画提案方式第2弾の事業として、八代市シルバー人材センターが実施し、マスコミ等の報道で注目を集めている、ハーフボランティア・ワシコインサポート事業に決めさせていただきました。

この視察研修には、役員・職群班長・地域班長及び互助会役員等から28名の参加があり、3月6日・7日の2日間の日程で行いました。

6日朝8時に宇品港に集合して、山陽高速道を一路九州に向かいましたが、関門海橋を渡る前から冷たい雨になりました。

菊水インターで降り、山鹿市に所在する大和朝廷が築いた鞠智城遺跡と資料館を見学して、明治時代末期に山鹿市財界有志が建築した芝居小屋、八千代座を見学しました。当八千代座は、平成の大修理を終えましたが、耐震補強工事以外は、ほとんど建設当時のまま復元されており、天井広告画、桟敷敷や奈落の廻り舞台装置には、当時



の建築の粋を見ました。翌7日は前日の雨も上が、9時30分に八代市シルバー人材センターを訪れました。

同センターの松山事務局長から歓迎挨拶を受け、風呂井理事長の研修受け入れのお礼の挨拶を経て、ワシコインサポート事業を企画提案した松村次長から、事業内容、事業の流れ、作業内容の説明がありました。

その後、地域の社会福祉協議会や民生委員の協議や協力、その他事業内容の周知方法について活発な質疑応答が交わされました。

このたび、研修に参加した会員は、ワシコインサポート事業について、漠然とした知識だったものが、説明を受け事業内容を理解し、また課題も把握することが出来たので、意義のある視察研修であったと思います。

野崎 剛睦

保健師さんからのアドバイス

熱中症を防ぐために・・・

熱中症の発生は、7～8月がピークになります。昨年の夏は、過去に例をみないほどの猛暑が続き、熱中症による健康被害が数多く報告されました。

●熱中症の予防には、「水分補給」と「暑さを避けること」が大切です。

予防法が実行できているか、チェックしてみましょう。

- こまめに水分補給する
- 汗をかいた時、適度に塩分補給する
- エアコンや扇風機を上手に使う
- シャワーや冷たいタオル・保冷剤で体を冷やす
- 室内に温度計を置き、こまめに室温確認する
- 暑い時は、無理をしない
- 涼しい服装をする
- 部屋の風通しをよくする
- 緊急時・困った時の連絡先を知っておく
- 涼しい場所や施設を利用する
- 外出時に日傘や帽子を使用する

●注意していただきたいこと・お願いしたい事

暑さの感じ方は人によって異なります！

・人間の体調や暑さに対する慣れなどが影響して、暑さに対する抵抗力（感受性）は個人によって異なる

ります。

・暑さの抵抗力に合わせて、万全の予防を心がけましょう。

高齢者の方は特に注意が必要です！

・熱中症患者のおよそ半数は、高齢者（65歳以上）です。

・高齢者は若年者よりも体内の水分量が少なく、体の老廃物を排出する時にたくさん尿が必要になり、水分が不足しがちです。

・加齢により、暑さやのどの渇きに対する感覚が鈍くなります。

・高齢者は体に熱がたまりやすく、暑い時には若年者よりも循環器系への負担が大きくなります。

まわりが協力して、熱中症予防を呼びかけ合うことが大切です！

・一人ひとりが周囲の人に気を配り、熱中症の予防を呼びかけ合うことで、熱中症の発生を防ぐことができます。

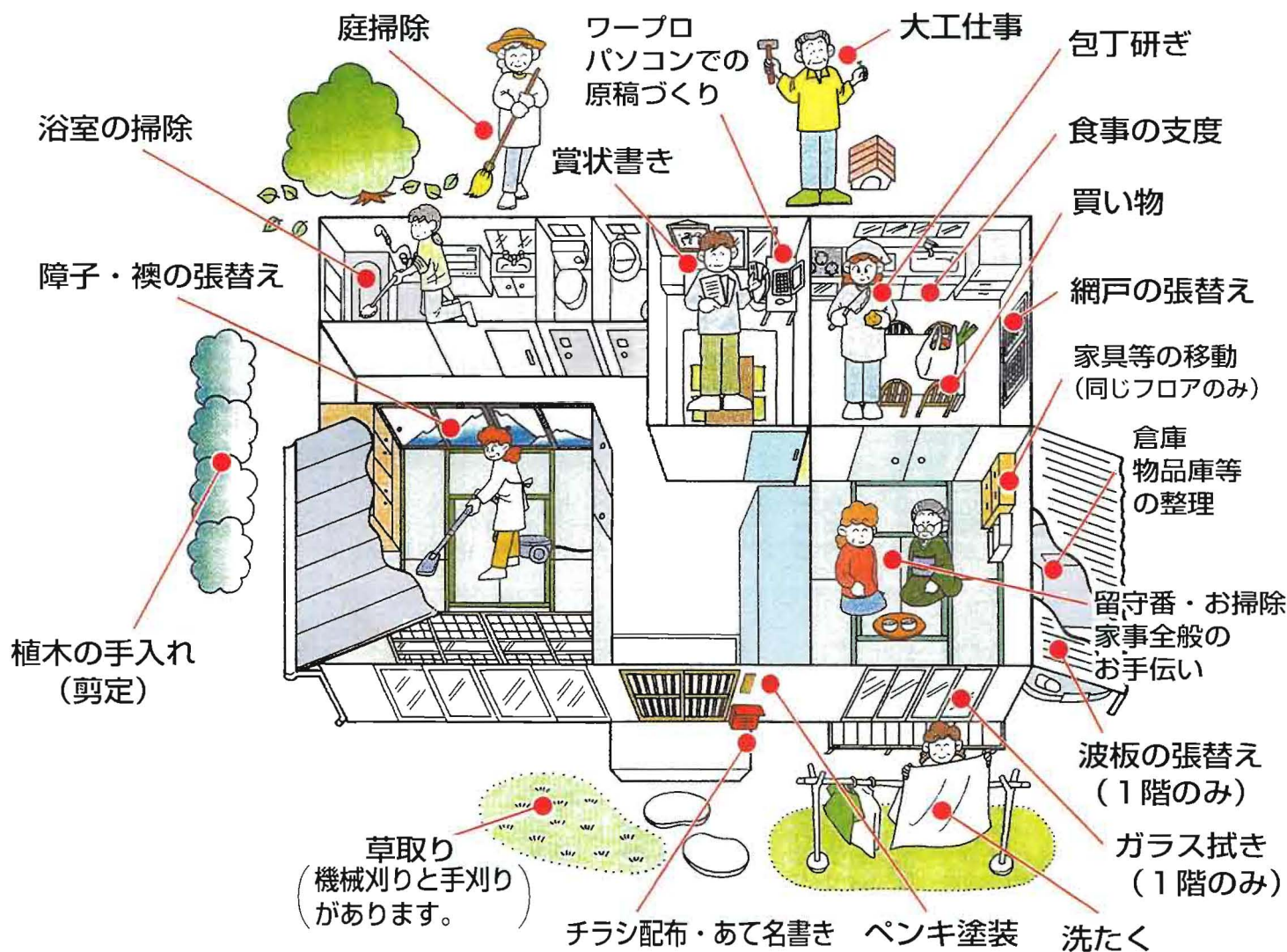
・特に、熱中症にかかりやすい高齢者、障害児・障害者や子どもについては、周囲が協力して注意深く見守るようにしましょう。

節電を意識するあまり、熱中症予防を忘れないようご注意ください！

・気温が高い日や湿度の高い日には、決して無理な節電はせず、適度に扇風機やエアコンを使用するようにしましょう。

高齢化社会に対応したシルバー人材センター

シルバー人材センターはこんな仕事をしています。



会員募集中

誰でも会員になれます

- 江田島市在住の方
- 60歳以上で健康な方
- 働く意欲のある方

